## 【参考資料2】仮想的な震源断層の検討方針

## (仮想震源断層モデル設定の考え方)

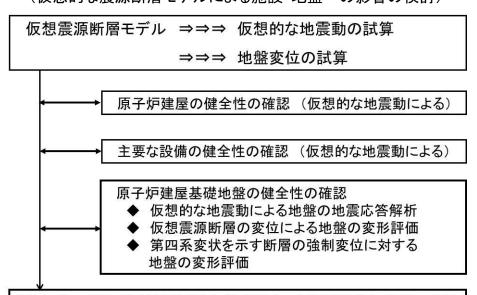
- ① 敷地内に認められる第四系変状 を伴う断層は、地震を引き起こすような活断層では無い。
- ② 第四系変状の成因として、『他の地震活動の影響を間接的に受けて生成された可能性』を仮定する。
- ③ これまでの調査結果では、 敷地近傍に活断層が無い ことを確認。

地形・地質状況で, 仮想断層の設定可能性を示唆するような何らかの根拠の検討。 ⇒⇒⇒ 例えば, 段丘面の高度分布, 地下深部の地質構造など

## 仮想震源断層モデルの設定

- 地形・地質状況の再考察 + 地震学の知見に基づく考察(地形等の根拠ない時)
  - ⇒⇒⇒ ◆ 仮想断層の想定の可否, 場所・規模の検討
  - ⇒⇒⇒ ◆ 内陸地殻内の地震として、仮想震源断層モデルの検討
- 本検討の目的は、仮にこのような地震を考慮した場合の施設・地盤への影響評価であり、仮想震源断層モデルは、なるべく敷地近傍に保守的に設定する。

(仮想的な震源断層モデルによる施設・地盤への影響の検討)



仮に、第四系変状が仮想的な震源断層による受動的な変位により 形成されたと考えた場合の、発電所の施設・地盤への影響評価 ⇒⇒⇒ 第四系変状に関する地震動及び地盤変位の検討終了